

4. 学生・教員による地域課題研究概要

地域課題研究

テーマ：「瀬戸内経済圏における攻めの農水産業と農水産物輸出－食品関連産業のグローバル対応の視点から－」

1. 地域研究課題の内容

広島県をはじめ、瀬戸内経済圏の産地の多くは、国内市場をメインにした生産、流通体制を構築している。一方で、加工部分の多くは、大手、中堅企業を中心に加工拠点を中国、東南アジアへ移し日本向け製品の製造を行っている。現在、産地や農水産物加工企業は、国内経済の低迷による低価格志向の広まりや消費量の減少、少子高齢化による人口減少を受けて国内市場が縮小していくという懸念を抱えている。

多くの産地では、生産構造の改革や活力ある担い手確保に努めるとともに、行政や産地企業が主体となって海外に向けた販路拡大を目指している。また、海外に拠点を移した加工企業は、日本向け販売の一部を現地および周辺国向けへとシフトし始めている。

しかし、国内からの輸出は、高付加価値、高価格品を中心とし、日本産品は高所得者市場しかターゲットにできない。輸出を行なう多くの企業は、海外市場の限界を感じている。

本活動では、広島県および瀬戸内経済圏の産地および食品関連産業がおこなう輸出の現状とグローバル市場から求められる要求にどのように対応しようとしているのか、関係団体、企業、機関からのヒアリング調査によって把握する。市場拡大の限界がみえる従来型の輸出戦略にある高付加価値・高価格路線とは異なる、新たな戦略の方向性についての検討をおこなう。

2. 研究の進捗状況

広島県の輸出振興、輸出政策、県内から農水産物や食料加工品がどのようなプロセスを経て輸出されているのか、輸出国や輸出相手からの要求に対してどのように対応しているのか等について関係者からヒアリング調査をおこなっている。海外に生産拠点をもち企業が、広島を拠点としながらどのような世界戦略を描こうとしているのか、などもヒアリングしている。これまでの調査対象は、広島県庁、食品関連企業、農水産物生産者などである。

3. 教育・研究への効果

生物生産学部の科目、地域経済や社会を扱う教育分野では、従来とは違う視覚から農林水産業や農山漁村を扱う必要性が増している。広島県における輸出活動を分析することにより、地域がダイナミックに動くグローバル経済、特にアジア経済に対してどのように対

応すればよいのかが見えてくる。広島県及び瀬戸内圏で生じている事象を多面的に捉えて、教育体系に取り込んでいく。

研究面では、日本及びアジアの農山漁村社会の構造変化がダイナミックに動く世界の経済社会変動のなかでどのように引き起こされているのか、地域がそれらにどう対応しているかという視点からの諸研究への貢献が考えられる。

広島地域をテーマとした卒業論文・修士論文

1) 該当する論文の発表数

年度	卒業論文	修士論文
平成 27 年度	5 / 22	4 / 5

注 1) 卒業論文の分母は「生物圏環境学コース」の卒業論文数。

2) 修士論文の分母は「食料資源経済学講座」の修士論文数。

2) 平成 27 年度 卒業論文のタイトル

- ・ 農業法人が農業の担い手確保に果たす役割と展開方向—広島県を事例として—
- ・ 広島県世羅町における農家民宿が地域振興に果たす役割
- ・ 広島県における中晩柑品種の展開
- ・ 広島県産レモンを使用した加工品に関する考察
- ・ 広島県産レモンを使用した加工品に関する考察

3) 平成 27 年 修士論文のタイトル

- ・ 経営継承の視点からみた新規就農者支援制度のシステムとそのあり方～広島市活力事業を事例として～
- ・ 家族農業経営の発展過程とマーケティング戦略の展開方向—広島県を事例として—
- ・ 農山村集落における過疎対策の実情と地域課題
- ・ 都市化進行下の水田農業地帯における農地転用の実態と地域農業への影響—東広島市を事例として—

4) その他

平成 27 年度においては、該当する地域のうち 2 か所（安芸太田町、世羅町）において、卒業論文あるいは修士論文の発表会を開催し、地域住民・農業関係者・行政職員などが多数参加して頂いた。研究結果を地域に還元する活動の一環であるが、微力ながら、学生の研究結果が地域振興に少しでもつながれば幸いである。〈以下、Facebook の記事より引用〉

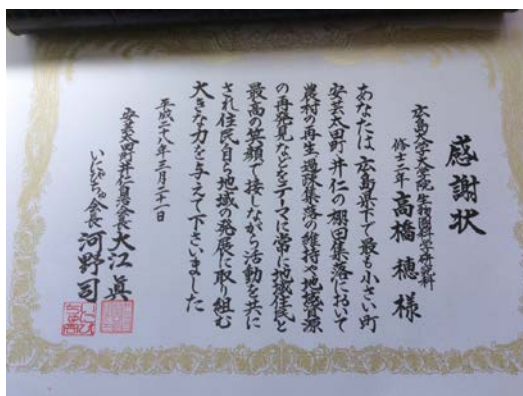
<2016年3月21日>

明後日に修了式（学位授与式）を迎えるうちの研究室の高橋穂さんが、今日、棚田で有名な安芸太田町井仁で修士論文の報告をしてきました。

彼女の修士論文は、美しい景観の棚田を持つ集落ゆえの苦悩と葛藤、そして誇り、これらがどのように住民の皆さんの中に存在するのかを悉皆調査で明らかにしたものです。

住民の皆さんは彼女の報告をととても温かい眼差しで見つめて下さいました。最後に住民の皆さんからサプライズで感謝状が彼女に手渡されました。これは、4年間通って、住民の皆さん全員の顔と名前を覚えた彼女が得た信頼の証です。

井仁の皆さん、本当にありがとうございました。



<2016年3月22日>

明日に卒業式を迎えるうちの研究室の林くんと黒木くんが、世羅町役場で卒業論文の発表をする機会を頂き、報告してきました。

林くんは世羅町の農業法人が農業の担い手確保に果たす役割、黒木くんは世羅町の農家民宿が農村振興に果たす役割について、それぞれの卒業論文で検討しました。

今日は、卒論執筆の調査でお世話になった世羅高原6次産業ネットワークの皆さん、世羅町産業振興課の皆さんに発表をご覧頂きました。

質疑応答や意見交換では、現場での皆さんの活動に即したとても貴重なコメントを頂き、卒業式直前にとっても意義深い貴重な機会となりました。改めて、世羅町の皆さんのホスピタリティに感激いたしました。

世羅町の皆さん、本当にありがとうございました。

